

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学 校 名 学 校 法 人 第 一 原 田 学 園 お か や ま 山 陽 高 校  
(※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注 1</sup>  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注 2</sup> ☒ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 7 1 9 - 0 2 5 2

岡山県 浅口市 鴨方町 六条院中 2 0 6 9

E-mail info@okayama-sanyo-hs.ed.jp

Website <http://www.okayama-sanyo-hs.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子 610 名 女子 485 名 合計 1075 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

## 2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 0 年 3 月予定（見込み）

※報告書提出時点～平成 3 0 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、“君の一步が世界を変える”を活動テーマとして、ESD を国際理解や国際協力、地域貢献の実践と捉え、ESD の実践を通して、自らの意思で参加し、問題を共有し、一步でも前に進める能力を身に着けることを目標としました。

具体的には、

《国際理解や国際協力》として

- ・ 中古野球道具の途上国への発送（画像①～
- ・ 全校生徒によるペットボトルの回収
- ・ 3 年生 全クラス海外修学旅行（科・コースの特長にあわせて）

《地域貢献》として

- ・ アッケシソウ保護活動
- ・ 鴨方駅清掃
- ・ 小学生への野球教室など
- ・ 災害時などの義援金
- ・ 服の力プロジェクト（ユニクロと協同）など

数多くの活動を行ってまいりましたが、全ての詳細を記載できませんので、

今回は、中古野球道具の発送について具体的に報告いたします。

時期	活動内容	学習内容
4・5月	全校に呼びかけ、回収、修理、整頓	世界が100人の村・世界一大きな授業参加などで、南北問題・途上国の実情を学習
6月	高校野球専門サイト、朝日新聞、本校ブログなどに掲載→JICAプログラム 春募集に出荷	昨年送付した国々から、手紙・DVDなどが届いたので、教材として使用
7月	野球部 県大会優勝…テレビ・新聞に数多く露出	
8月	・甲子園期間中、大会終了後もテレビ・新聞・ネットに数多く露出→多くの方々から、中古道具を寄付して頂く。 ・スピーチ大会で活動を題材に→数々の受賞とマスコミ露出	
9月	大会後も取材多数	秋 送付予定国の調べ学習。
10月	ジンバブエ共和国より東京五輪予選のコーチ就任要請	ジンバブエについての調べ学習
11月	・全校に呼びかけ、回収、修理、整頓→JICAプログラム 秋募集に出荷 ・中国大会優勝して選抜大会内定→マスコミ露出急増 ・岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワークで発表	野球部、スピーチ部、インターアクトクラブなどを中心に、ユネスコスクールネットワークでの発表準備の中での学習（校内発表用にも準備）
12月	・選抜大会へむけてのテレビ・新聞・雑誌で活動紹介	
1月	・活動成果発表会にて発表（今回は、他の活動を発表） ・中学校などへの講演活動で、活動紹介 ・小学生への野球教室（活動協力団体140人） ・選抜大会へむけてのテレビ・新聞・雑誌で活動紹介	
2月	・選抜大会へむけてのテレビ・新聞・雑誌で活動紹介 ・現職教員が、青年海外協力隊合格（12月派遣予定） ・ESD活動の出前授業（近隣 小・中学校・ボランティア団体）	新年度に、新たな学習を企画中

○受け取った方々からの写真



○活動の掲載記事



○ジンバブエ人來校、特別授業



○地域スポーツ少年団から寄付



○お礼の写真



○近隣の学校への出前授業



○受け取った方々



○発送準備



○世界一大きな授業



○途上国についての学習



## 《記載以外の活動風景》

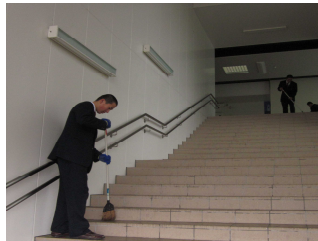
○ 全校生徒によるペットボトルの回収



○ 三年生 全クラス海外修学旅行



○鴨方駅清掃



○小学生への野球教室



○災害時などの募金活動



○服のカプロジェクト（ユニクロと協同）



アクセシソウ保護活動





○広島土砂災害撤去活動



○カンボジアでの井戸制作活動



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

## エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・地理 A

開発教育教材『コーヒカップの向こう側』『教材 4 アロマ村のコーヒー農園』  
貿易ゲーム(様々なサイトを見て、アレンジを加えたものになります。)

書籍

- ・世界がもし100人の村だったら 著:池田香代子 訳:C. ダグラス・ラミス出版社:マガジンハウス
- ・世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ 大型本 - くさば よしみ(編集), 中川 学(イラスト)
- ・身近なことから世界と私を考える授業(開発教育研究会)
- ・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら(開発教育協会)
- ・水から広がる学び(開発教育協会)
- ・コーヒーモノガタリ(アフリカ理解プロジェクト)
- ・地球の食卓(開発教育協会)

新聞・資料・ウェブ(一部)

- ・世界一大きな授業 教材プリント
- ・日本の食糧事情(山陽新聞 2009年5月20日)
- ・エイズ予防(朝日新聞 2014年1月7日)
- ・出生率(中国新聞 2013年6月6日)
- ・水は宝(経済観測 2012年5月12日)
- ・水のコンテンツ 水のある生活の有難さ(ウェブ)
- ・飢餓の解決と私達にできること(ウェブ)
- ・大量「食糧廃棄」―博士の独り言(ウェブ)
- ・実は足りない 日本の水(毎日新聞 2012年4月27日)
- ・アフリカは今(朝日新聞 2012年7月10日)
- ・天声人語、滴一滴 多数(朝日新聞コラム、山陽新聞コラム)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では総合的な学習の時間として、マイスタースクールという選択授業を行っています。その中の一つである「インターアクト」では衣服を集め、発展途上国へ送るなどしています。

また各科目によって違いはありますが、私の担当科目「地理 A」ではアクティブラーニングとして、グループワークで ESD を行うようにしています。発展途上国に住む人たちの生活が私たちの生活に対してどの程度厳しいものなのか、それらの地球的課題をどのように解決にしていけるのかを考える機会となっています。最初はゲーム感覚でやっているものの、授業終わりには知らない所で苦しい思いをしている人があると気付かれ、身近な所から行動していこうとする動きが見られます。

また現代社会や地理などで“世界一大きな授業”にも参加します。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール委員会を設置しました。活動の多くは、ユネスコスクール申請前から継続的に取り組まれているものでしたので、それぞれの活動の責任者に協力していただき、委員会に連絡・報告をしていただきました。そして、活動の報告や表彰された団体などを中心に、年度末に活動成果発表として全校生徒に発表し、新年度への活動の向上やより高いモチベーションになるように組織的に取り組んでいます。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

活動の質の向上のために、学校活動の内部的な評価の具体的な内容は、前述した活動成果発表会に集約されています。また、各種活動をスピーチ部と連携して発信し、各大会でのスピーチ内容の題材にしています。そして、年間を通じて様々な賞を受賞していることが評価と言えます。また、地元紙を中心に活動の多くが掲載され、記事のコピーをクラス掲示し、また年度末にはニュースの記録という冊子を全生徒に配布しています。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

中小道具の発送に関しては、6 月から新聞・高校野球の専門サイトで取り上げて頂きました。さらに甲子園出場が決まると、全国放送のテレビ、雑誌、サイトで度々取り上げられました。大会後も NHK、ラジオ等でもお伝えし、視聴者の方々や練習試合の対戦校からも寄付して頂きました。さらに、現在、選抜大会にも出場予定ですが、連日のようにマスコミに発信されており、他校の指導者が何人も青年海外協力隊に受験するなど大きな効果があがっています。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

中古道具の発送を通じて、中国地方を中心とする小学校から高校中や社会福祉協議会などへの講演活動も急増し、スポーツ・ボランティア・学校など多様な団体との交流が進んでいます。アッケシ草の保護や災害時の義援金活動、地元での高校生レストランなど様々な活動、それぞれがシナジー効果を生み、さらにスピーチ部がそういった活動を全国各地で発信することで遠くにいる団体とも交流が図れました。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

「未来をつなぐ高校生ESD」では、県内の高校生、ブルガリアの高校生と交流をし、本校の取り組みを生徒自身が発表しました。発表して終わるのではなく、発表に対しての感想や質問、意見などを同世代である高校生同士で話し合う機会もあり、これからも活動続ける生徒や本校にとって、とても有意義な交流会となりました。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

中小道具の発送に関しては、甲子園出場に伴い大きな反響を得ました。それは、地域・保護者・校内での学校自体のブランド化にも寄与していると思います。その裏付けとして、今年度の受験者数にも反映され、定員を遥かに超える専願希望者数です。また、過疎の進むこの町での明るい話題になり活気に満ち溢れています。ただ、甲子園に出場するだけでなく、甲子園を活動を知っていただくための手段として捉えたことが大きな成果につながっています。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200～400 字程度)

年間の活動計画は、基本的な流れは申請時のものと同じで、国際協力活動・地域貢献活動を 2 本柱とする上で、通常授業の中で活動の土台を教授していくことになります。大きく変わるのは、選抜大会に野球部が出場することで、昨年よりもさらに色々な団体と交流が始まるだろうと思うこと。さらに、8 月にはジンバブエ共和国の野球選手を来日させ約 1 ヶ月間、生徒と交流をします。それは、2019 年の東京オリンピックアフリカ大陸予選への準備という位置づけです。ただ中古道具を送るだけではなく、活動によりリアリティを持たせます。ジンバブエ共和国のオリンピック挑戦をバックアップすることで、生徒たちに教科書を使う以上の、また道具を送るという一方通行に陥りがちな活動を双方向の体温を直に感じられる活動にしていきます。そういった活動にマスコミを絡め、より生徒や地域の方々のモチベーションを高め、本校 ESD プロジェクト“君の一步が世界を変える”を実践していきます。